

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375000250		
法人名	有限会社サポートハウス		
事業所名	サポートハウス ごらく		
所在地	名古屋市名東区極楽2丁目232番地		
自己評価作成日	平成21年10月21日	評価結果市町村受理日	平成22年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成21年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段から外出する機会を出来る限り増やし、地域での活動へ積極的参加し、閉じこもりがちにならないよう気をつける。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スタッフは法人の理念を踏まえて利用者主体のケアに努め、個々の外出希望にも誠意を持って当たっている。職員は家族や地域の人々が参加する年間行事を企画・実施している。中でも恒例となっている運動会は利用者をはじめ関係者全員の楽しみになっている。家族会や運営推進会議などで出される意見や要望はすぐに職員会議で検討しサービスに反映するなど、サービスの質の向上を目指すスタッフの意識は高い。利用者が家族や地域社会との関わりを大切にしながら「ゆったり楽しく当たり前の生活」ができるように支援している。終末期に際しても人生を終える当たり前のこととして受け入れる方針を明確にし、チームの連携を密にしながら重度化に対応している。家庭的で温かい雰囲気家族からの信頼は厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中に認知障害になった人でも「当り前の生活を送れるように心掛けている」とある。グループホーム入所後も、社会との関わりを継続できるよう、自宅・近所とのつながりをサポートしている。	理念は玄関に掲示されている。スタッフは理念を振り返りながら日々のケアに努め、毎月一度全員参加の会議で共有の確認を行う。利用者全員が家庭的で暖かい環境の中でゆっくり楽しく生活できるようにサポートしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(運動会や清掃など)に積極的に参加したり、行事を開催する時にチラシを配って参加をして頂いたりしている。また、自治会の組長を務め利用者も一緒に参加している。	利用者全員が住み慣れた地域の中で当たり前の生活を送ることができるよう、地域に住む人々との交流を大切にしている。自治会に加入し、スタッフ、利用者ともに地域の行事に積極的に参加し、ホームの行事には地域の人々を招いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長が地域からの要望による講演会を行っている。また、日本認知症グループホーム協会の理事を務めグループホームの相談や助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で出た意見、要望については、職員で話し合い検討している。要望をケアに取り入れるように心掛けている。	会議では毎回色々な議題について積極的に話し合われる。例えば、昨年8月には「看取りについて」ホームの方針を含めて話し合われ、再確認しながら学ぶ機会となった。出される意見や要望は決して無駄にすることなくサービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことや分からないことを、介護指導課に随時相談し、必要があれば足を運んでいる。	他市町村からの利用者の受け入れや医療行為に関する事など担当者に相談しながら連携を大切にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	随時行っている勉強会でテーマを取り上げ皆で学び理解している。	スタッフ同士で身体拘束について日々のケアの中で話し合うことは多い。また、必要に応じて勉強会を持ち意見を出し合いサービス向上に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	随時行っている勉強会でテーマを取り上げ利用者の心身のごまかな観察には、手を抜かず注意を払っている。又、介護者のストレスを軽減できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	随時行っている勉強会でテーマとして取り上げ、皆で学び支援している。家族からの相談には、制度の活用や説明を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	誤解が生じないように、契約前には細やかな面談や話し合いを行い、理解、納得されている。又、契約書も分かりやすいものである様、常に見直しを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族会を開催し、要望、意見を聞くようにしている。また、日頃から利用者本人に聞いたり家族の訪問時には話を聞いている。	年に3回開催する家族会は意見や要望を把握する貴重な機会である。運営推進会議なども含め常に利用者や家族の意見、要望の把握に努め運営に反映させるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会議や日々のコミュニケーションを密にとることで、意見を聞く機会を設けている。又、出た意見はすぐに職員会議を開き、対処方法を考え反映させている。役員にも協力、理解を得ている。	最近では夜勤体制についてスタッフからの意見が出されている。毎月の定例会議や日々の勤務の中で出される意見や提案については話し合う機会を設け反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	家族環境の変化等により、それまでの勤務体系で働くことが難しくなった時、その人の働きやすい体系に変更するようにしている。管理者と代表者はこまめに話し合いの場を設け、職員の勤務態度等を報告するようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は段階に応じ随時受けさせている。場合によっては、職員に参加を募り学びの窓口も広げている。又、施設内でも新人研修他随時行い、実践につながる指導を取り入れている。職員がスキルアップをしやすいよう、資格取得制度も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区別の意見交換会に参加したり、就業後の事業者同士の県下のグループホーム協会に加盟し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には必要に応じて数回面談を行い、本人希望を聴く機会を設けている。見学もいつでも受け入れる体制をとっており、本人が納得できるサービスの提供ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、契約前には必要に応じて数回面談を行い、家族の希望を聞く機会を設けており、サービスに受け入れるようにしている。見学もいつでも受け入れ、施設の方針の理解を得て、信頼関係を築けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学申込みの際、他のホームなどもよく見てもらい、本人、家族が納得できる、信頼できる場所を探し、考えてもらうようアドバイスしている。又、ニーズを把握し、入所以外の選択肢についても説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設の理念である「ゆっくり、一緒に楽しく」をモットーに、職員利用者間だけでなく、利用者同士の間でも助け合って物事を行うように支援している。行事等では、皆で同じ体験をし、絆をつくる環境をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでも報告を欠かさず行い、必要に応じて協力を得ている。定期的な行事には参加を求め、現状を把握する良い機会となっている。家族だけでは外出が難しい利用者でも、必要なときに介護者がケアを手伝い、皆で支え合っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に関しては、施設では訪問時間を特別に決めておらず、24時間365日いつでも受け入れられる体制をとっており、どんな方にも訪問しやすい環境をつくっている。	馴染みの美容院や喫茶店などへ出かけることができるよう支援している。行き慣れた公園に散歩に行くことも多い。また利用者からの遠くへの外出希望についてもスタッフが付き添い馴染みの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を認め、時には職員が入りサポートしている。他利用者への影響を常に考えながら、利用者へのケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に訪問できる環境づくりに努めている。定期的に電話連絡をし、近況報告を話し合ったり、施設の行事参加への声を掛けたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	契約前、入所前にこまめな面談を行い、把握に努め、サービスに活かしている。困難な場合、誰かの意向に偏らぬよう、家族・職員皆で考え検討している。	日々の会話やケアの際に見られる何気ない言葉やしぐさに目を向けるように心がけ、その人が望んでいることや訴えを汲み取るようにしている。家族やスタッフ間で情報を共有し、意見の均等化を図りながらケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前、入所前にこまめな面談を行い、把握に努め、サービスに活かしている。過去のサービス利用不満足等が当施設で改善できるよう、より良いサービス提供のための情報源としている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方や状況を細かく記録し、あとからも見直せるものとして残してある。又、それを基に介護計画を立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の体調等に著しい変化があった時は家族も参加して頂くが、普段は家族の訪問時に聞いたり、スタッフ間で話合って現状に即した内容になるようにしている。	介護計画は家族、各スタッフ、利用者の希望も含め、多くの意見や情報を収集し反映させるようにしている。モニタリングを定期的の実施し、日々の小さな変化も見逃さないようサービスの向上に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を1日の流れと共に、小さな変化や状況を細かく記入している。又、職員だけでなく家族とも情報を共有しやすいように誰が見ても分かる記述の仕方に注意している。また、介護計画の見直しがしやすいよう記録の書式を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応すべく、行きたい所や見たいものなど、個々に要望を個々に要望を確認し、実現するための取り組みを行っている。また、ユニットにとらわれない利用者の生活を支える体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個人の意向や必要に応じて、協力を得ている。又、消防訓練等、消防署と相談、助言をもらい行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関について説明した上で、本人、家族が希望することになっている。協力医療機関以外のかかりつけ医への通院は基本的には家族に行ってもらっている。家族からの依頼があれば、協力する体制あり。	協力医の往診や看護師の訪問などがそれぞれ月に2回ずつある。看取りなどを含めた緊急時には、夜間対応も可能で利用者が安心してホームで過ごせる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、定期的に利用者の健康チェックや状況確認、相談を行っている。又、必要に応じていつでも連絡を取り合って対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は見舞いに訪れ、病院関係者と情報交換を行っている。退院時にも病院関係者から情報をもらっている。入院期間中は家族を介して情報をもらったり、お見舞い時に話を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応について、本人・家族へ説明している。重度化した場合は主治医・家族・本人と話し合いをする場を設け、その後の支援方法などについて決めている。	職員は利用者の現状に合わせて家族・主治医・本人との話し合いを行い、方向性や支援方法を定めるようにしている。スタッフも“看取り”を自然なものとして受け入れており、情報交換と連携を取りながら最後まで家のように過ごしてもらおう支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や消火器訓練は、勉強会や実際に体験し学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については何回もロールプレーをし、色々なケースにも対応できるように、常日頃から取り組んでいる。又、日頃から近隣の方へ協力してもらえるように働きかけをしている。	年に2回、防災訓練を実施。日中・夜間で毎回色々なケースを想定して行っている。運営推進会議などを通して地域への働きかけを行い、緊急時の協力を得よう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	随時行っている勉強会でテーマとして取り上げ皆で学び理解している。	日々の業務においては、言葉使いや支援の仕方などが利用者の誇りとプライバシーを尊重した行為であったかをスタッフ同士で指摘し合い、また、自分の支援方法を確認するように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々利用者本意のケアに努めている。分かりやすい説明を心がけ、日常の小さなことでも自分で決めたことの喜び、納得していただけるよう支援している。行事や外出時でも利用者の希望、要望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者本意のケアに努め、1日の起床から就寝に至るまでの流れを、利用者が作り上げていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の個性を大切にしており、化粧にこだわる方、衣服、髪型にこだわる方、それぞれに対応している。必要に応じ家族に協力を得ている。その日の服装選びも極力利用者にかかせている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存機能を活かし、得意な方や好きな方に準備、片付けを行ってもらい、職員は補助に徹している。	出来るだけ毎日利用者と一緒に買い出しに出かけ、スタッフと一緒に楽しみながら食事の準備や片付けを行っている。手伝いをしてくれる利用者が多く、出来る人が出来ることをし、それぞれが役割を持って参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の記録やその時々々の情報交換を基に把握している。又、摂取しやすい味、形態、環境に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、自分で出来る人は自分で、介助が必要な方には介助にて行っている。又、その人の口腔状態によって歯みがきだけではなくガーゼ、ブラシ等を利用している。又、異常がある時は協力歯科機関に相談し、必要に応じて治療している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めてトイレ誘導をするのではなく、その人の排泄リズムやサインを把握し誘導するようにしている。ただ、排泄の失敗を減らすことやオムツの使用を減らすことだけを考えるのではなく、本人によって何が一番良いのかを考え支援を行っている。	排泄チェック表でそれぞれの排泄パターンを把握し、一人ひとりのリズムに合わせて誘導するように心がけている。“失敗をする”ということだけにとらわれず、その人に合わせたケアができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々によって便秘の原因や解消方法は違う。例えば朝一番で冷たい牛乳を飲むと出やすい人、ヨーグルトを食べると出やすい人、食物繊維を摂ると出やすい人等、個々に対応を変えている。その他、便秘予防運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所前の面談時に要望を聞き取り入れたり、その日の本人の気分によっても変更している。夜間入浴の方も数名おり、随時希望に応じて対応して支援している。	基本的に毎日実施。利用者の希望時に対応が出来るようにしている。入浴を拒否される人には、声かけの時間を変えたり、清拭を行っている。毎日日替わりで入浴剤を使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣を個人の記録を基に把握し、家族の協力を得て状況を把握しながらケアをしている。例えば寝る前の談話の時間を作ったり、枕元にぬいぐるみを置いたり、個々に合わせて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は常に職員がみることができるようになっている。又、薬が変更になったときはすぐに申し送りを行い、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	年に数回行事を行い、例えば運動会では数ヶ月前から競技の練習を行ったり、また出場する競技を本人に選んで頂き、楽しんでもらえるようにしている。日常では個々の力を活かし役割分担をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気晴らしのちょっとした散歩や外出は、いつでもできるように支援しており、職員全員が心得ている。	食材の買い出しや近くの公園への散歩など、ほぼ毎日ホームから出かける機会を設けている。また家族の協力を得ながら、利用者の希望の場所や外食などへ出かけホームに閉じこもらない生活を心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等、お金を使用する状況では、極力利用者に任せるようにしており、お金の所持、使うことの機会を設けるように配慮している。家族にも協力を得て、家族との外出もそのように対応して頂いている。全て立替購入を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に応じ支援している。電話や手紙のやりとりを通じ、疎外感、孤独感の防止にも努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内には看板を設置したり、利用者の好きな音楽を流したりして、心地良い空間、空気をつくるよう工夫している。季節ごとに壁に飾り物を作ったりカレンダーを見やすく利用者が毎日替えれるよう工夫し、季節を感じれるようにしている。	ホームの壁画には利用者が作成した作品や季節の飾りものがあり、あたたかい家庭的な雰囲気が伝わってくる。キッチンの周りには利用者が自然と集まり、スタッフと楽しく会話する姿が見られた。ホーム内の掃除も行き届き清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況により、テーブルやソファなどの配置を変えたり、目隠しを置くなどしている。又、即席でくつろぐ空間をつくり、共用空間の中に空間がいくつかあるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前に家族に説明し、使い慣れたもの、愛着のあるもの、大切にしているもの等を持参して頂くようにしており、心地よく過ごせるように努めている。	入居前まで使用していた家具や思い出の物を自由に持ち込んでもらい、今までとできるだけ変わらない生活環境を作るよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は個々に応じてベット柵を設置したり、家具の配置・ベッドの種類を変えるなど工夫している。又、個々に合わせた声掛けを行い、利用者を混乱させないように努めている。声を掛けすぎないように、手を掛けすぎないように努めている。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会に加入し町内の清掃や消防訓練ほか敬老会や小学校の運動会など地域の行事に積極的に参加している。ホームの行事にはチラシで地域の人々にも参加を呼びかけ地域と家族参加の行事の企画もいろいろある。中でも恒例となっているサポートハウス合同の運動会は利用者をはじめ家族や地域の人々にとって大きな楽しみとなっている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 利用者、利用者家族、主治医、施設長、法人内の他ホーム管理者や地域住民代表などの参加で2～3ヶ月に一度開催される。ホームからの報告や行事、勉強会、意見交換やアドバイスなどいろいろな議題が盛り込まれる。意見、要望やアドバイスについてはすぐにホーム側で検討し業務に反映させる。昨年8月に家族から日帰り旅行について提案があり10月の会議において実行に向けて調整中である旨が報告された。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 困っていることやわからないことなどを随時相談連携をとっている。最近では短期利用（お試し利用）開設についての相談、また他市町村からの受け入れ、医療行為の件などで相談した。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 家族会の集まりや運営推進会議で出された意見や提案、あるいはグループホーム訪問時に開けた家族からの意見や要望はすぐに会議の中で検討し業務に反映するよう努めている。家族からのことはすべてを大切に考えており些細なことも気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営推進会議では利用者、職員、家族その他参加者を含め、利用者がいつかは迎える最期『看取り』についての勉強会を開き、情報や方向性を共有しながら利用者や家族の意向に添える環境作りに取り組んでいる。慣れ親しんだ場所で出来る範囲で最善のサービスを提供し、利用者や家族と共に最期まで『その人らしく』の思いを第一に考えている。日頃から家族とのコミュニケーションを大切にし、相談や要望にいつも快く職員が耳を傾けてくれると家族からの信頼も厚いホームである。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

